

国民の声と運動、その願いを担った日本共産党の論戦 政治を一步前に動かす

——読むと希望がわく『しんぶん赤旗』の「購読を！」——

ご近所のみなさん、日本共産党です。

第一六九国会が終わりました。

昨年、参議院選挙で、政府与党、自民・公明が大敗北をしたことよって、国会は、参議院では、野党が多数の、いわゆる「ねじれ国会」です。

日本共産党は、この国会で、みなさんの声と願いを担って、大奮闘をすることができました。

今日は、その報告と、今後に向けた決意の一端を、お話ししたいと思います。ご協力をよろしく願います。

みなさん。

貧困と格差の広がり、「ワーキングプア」は、大問題です。

日本共産党は、今度の国会で、若い人たちを使い捨てにする、「派遣労働」の、深刻な実態をとりあげました。そして、人間らしく働くことができるように、「日雇い派遣」を禁止するなど、労働者派遣法を抜本的に改正することを、提案しました。

こうした国会論戦と、労働者・国民のたたかいがあいまって、キャノンなど、製造業の大手を中心に、派遣労働を直接雇用に切り換える、動きが、広がり始めました。注目すべき動きでは、ないでしょうか。

政府・厚生労働省も、大臣が、「日雇い派遣」の原則禁止を表明して、派遣法改正案を臨時国会に提出する立場を明らかにしました。

日本共産党は、人間らしく働く、ルールのある経済社会をつくるために、引き続き、全力をつくす決意です。

みなさん。

今度の国会では、お年寄りに、七十五歳で線引きをして、重たい負担と、差別医療を押しつける、「後期高齢者医療制度」が、大問題になりました。

日本共産党など、野党四党は、「後期高齢者医療制度」を廃止する法案を、共同で提出して、参議院では可決することができました。

与党が絶対多数を占める、衆議院では、この廃止法案を、否決する動きもありましたが、**廃止を願う国民世論の高まりのなか、与党、自民・公明は、否決を断念しました。**

「後期高齢者医療制度」を廃止する法案は、継続審議となりました。

廃止に向けて、引き続き、力を合わせようではありませんか。引き続き、署名にご協力を、よろしく願います。

みなさん。

福田康夫首相は、六月十七日、こともあろうに、消費税増税について、「決断しなければいけないとても大事な時期だ」などと、言いました。世論を気にして、国会閉会直後の二十三日には、「二、三年とか長い単位でもって考えた」と、言い直しましたが、消費税増税の「決断」を、否定したわけではありません。

いわゆる「ねじれ国会」状況で、**国民の声と運動**、その願いを担った日本共産党の論戦は、**政治を一步前に動かす**ことができました。これからも、この力を發揮して、消費税増税を断念させようではありませんか。

『しんぶん赤旗』は、国民的な運動と一体になった、日本共産党議員団の奮闘を、詳しく報道しています。**ご購読を**、よろしく願います。ありがとうございます。